

# 熊本地震と医療・教育現場の被災状況

## 熊本地震による下益城郡医師会管内の被災状況 および避難所への医療救護活動について



下益城郡医師会会長 泉 正治

平成二十八年熊本地震では、四月十四日と十六日、益城町を震源として、震度7の大地震が二度発生、各地に甚大な被害を齎しました。特に益城町や南阿蘇村は凄まじい状況です。

宇城市、美里町、熊本南区城南・富合町の被災状況や避難所の救護活動を報告致します。

建物の被害は、益城や南阿蘇と比べて軽度から中等度と言えます。殆ど一部損壊か半壊程度です。人的被害では、城南町の男性が一名、崩れた家の下敷きになり死亡されました。今回の地震では、余震が非常に多く、始めは余震も強く、その都度被害が進みました。

我が家では、外壁タイルが剥がれ、風呂場のタイルや窓ガラスは亀裂が走り、サッシはレールから外れ動かず、障子も開かず、屋内の壁紙は縦横に裂けました。診療所は、塀が崩れ、駐車場はひび割れが幾つも入り、地盤沈下で水道管が破断し断水状態です。

近隣も同様で、住民は余震が怖く帰宅せず、車中泊や避難所暮らしを続けています。

病院の被災では、宇城総合病院は、窓、外壁、配管に数億円程被害を受けましたが、急患を受け続け、夜か

ら朝まで待合室に避難者を保護。熊本病院は、手術室の无影灯が崩落、MRIの足場が損壊、壁や階段の亀裂が発生。あおば病院では、地震で三階のスプリングラーが誤作動、全階が水浸しになり、患者を県内外の精神病院へ救急搬送されています。

このように宇城市の各病院は被災しましたが、同時に当医師会館も被災、通信機器が破壊され外部と連絡が途絶え、数日間機能不全になりました。

私は宇城市の被害状況も把握できずに、十五、十六日と毎日診療を続けています。

十六日の昼時、県医師会災害担当西理事の電話が入り、宇城市内の各避難所に被災者が溢れている事実を知らされ、救護班の結成を指示されています。

事務局の携帯電話に辛うじて繋がり、直ちに具体的な救護班の結成を指示しました。

若い医師を中心に、宇城市の松橋町は私を含め七名、小川町四名、豊野町一名、下益城郡美里町六名、熊本南区は富合町四名、城南町一名を選び、それから四月一杯、地区毎に、皆で各避難所を分担して診廻り続けました。

次に全国の医療救護班派遣を報告

します。宇城市に七DMATが来て、災害拠点病院の宇城総合病院が主にDMAT、JMAT、JRAAT（リハビリ）を行い、同院にAMATが支援。三県から保健師が来て、市本部に自衛隊医療班常駐。美里町に、二DMATが来て、埼玉JPAAT（精神）と宇城総合病院JRAATが入り、宮崎市の保健師が来ました。熊本南区富合・城南町では、二県のJMATが活動。二箇所仮設診療所を開設。JRAATは、富合町では、にしくまもと病院地域リハチームが主に四避難所を訪問。城南町では、人吉地域リハチームが各避難所を訪問。また城南病院のリハチームと医師も城南町火の君センターを訪

問しています。これまで、県内外から下益城郡医師会の各地の避難所に多くの御支援を頂きました。お蔭で、当医師会管内の各避難所では、二次的な被害が少なかったと感謝しています。最後に、今回地震の犠牲になられた五〇名の皆様の御冥福を心からお祈り申し上げます。

